

人とのつながりと防災

西川 瑞希

私は、始め電気やガス、水や食べ物はあるのがあたりまえで、なくなることはありえないと思っ、ていました。それに、地震がおきたら大変なことになることくらい分かっ、てるし、とりあえず家にいれば安全だと思っ、ていました。でも、今日岸本さんの話をきいて、それはまちがっ、ていることがよく分かりました。

岸本さんの話の中で観た写真は、アニメのよう
うに家がたおれていました。そのうえ水や食べ物もなくなっ、てしまうことも分かりました。私は、災害がおこると、いつものあたりにま
え^レがこんなにかンクンにくずれてめちゃくちゃな生活に変わっ、てしまうことがこわくな
りました。

私が話の中でびっ、くりしたのは、世界中から生活に必要な道具や手紙が送られてきていたことです。私なら、そこに友達や家族がいるのなら、その人のために何か送っ、てあげよ

うと思っけど、世界中から神戸の人の一人一人にあたるほどたくさんの方が送られてきていたことにとってもおどろきました。世界にはそんなにやさしい人がたくさんいるんだなと改めて思いました。

私は、岸本さんの話を聞いて、岸本さんの「まったく知らない人だけと私のこと心配してくれていたんだな」という言葉がすこいと思っました。私はこんなにたくさんの方が神戸の人のことを心配して、神戸の人も世界中の人に感謝していることがとてもやさしい世界だと思っました。私は他の国の方がこまっていたら岸本さんのようにボランティアを進んでできなくても、すこしでも何かいいことをしてあげることができたらいいなと思っました。それが私の世界に返せることだと思っました。